

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

第三千七百七十一號
明治廿六年九月廿七日
水曜日
舊曆癸巳八月十八日

時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價運送料は左の如し

- 時事新報運送料
一 日本國內並に朝鮮京城、仁川、釜山、元山津
一箇月 金拾三錢

時事新報廣告料

Table with 2 columns: 一行 (1 line) and 一日以上 (1 day or more). Rates for 1 line and 10 lines are listed.

本社へ寄稿の件

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を

時事新報

近來の一奇

とも云ふ可きは地價修正派の委員と稱するものが政府の意見を聞くが爲めなりとて當路の各大臣を歴然として

又は視察員よりの報告具申はあはる可しと雖も尙ほ親しく其事情を述べて免稅等の恩恵を請願する爲めに人民

提出は政府の政略に關するものとせば當局者たるものも豫め之を明言して自から自家の政略を妨るが如き愚

官報

- 司法省告示第四十五號
來月十月二日ヨリ左ノ出張所ヲ開闢ス
水戸地方裁判所出張所
水戸區裁判所出張所

力の狀此の如き
らざるを見る可
る過てり今時自
想湧出せんふと

○東京市會
水道起工地祭式
最初小幡官吾氏
肥塚龍氏は反對者

雜報

○九州の自由黨特派員
星、河野、松田の三氏が
黨勢擴張のため遊説に赴きたるに就ては西海の風雲

○市會の休會
十分限なりし
し事會に其議を
購入に係る費用は